

オガサワラヌムスリカ

Macropelopia ogasaxetdecima

ハエ目(双翅目)
ユスリカ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長約 5mm。全身褐色から暗褐色で毛深い。翅のほぼ全体に一樣に毛を密生する。後胸背板の正中線に沿って数本の剛毛がある。♂の交尾器の底節突起を欠き、把握器は内側に向いて曲がる。尾針はない。幼虫は赤褐色で頭部は褐色。巣をつくらず徘徊性。小型のユスリカなどを食べる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

水たまり、河川の淵または流れの緩い瀬に幼虫が生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

河川の水質悪化および渇水による河川環境そのものの減少が脅威となる。緩流部に生息するので、河川改修などで淵がなくなると生息場所が減少する可能性がある。

【関連文献】

Sasa, M. & H. Suzuki, 1997; 上野隆平・佐竹潔, 2009.

(執筆者: 上野隆平)



♂交尾器

写真提供: 国立科学博物館

和名なし

Brillia ogasaquinta

ハエ目(双翅目)
ユスリカ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長約 4mm。全身黄褐色で毛深い。翅全体に一樣に毛を密生する。♂の交尾器の底節突起は指状で長く、把握器は内側に向いて曲がり、二叉に分岐する。尾針はない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

河川上流から中流で *Brillia* 属の幼虫が採集されており、本種の幼虫であると思われる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

河川の水質悪化および渇水による河川環境そのものの減少が脅威となる。

【関連文献】

Sasa, M. & H. Suzuki, 1997; 上野隆平・佐竹潔, 2009.

(執筆者: 上野隆平)



♂交尾器

写真提供: 国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

オガサワラフタオツヤユスリカ

Cricotopus ogasaseptimus

ハエ目(双翅目)
ユスリカ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長約 2.5mm。大部分が黒褐色で、前脚脛節と第 1、4 腹節および交尾器が黄色。♂の交尾器の底節突起および尾針を欠くが、第 9 腹節後端に円錐状の突起が 1 対ある。把握器は内側に向いて曲がる。幼虫は黄色で頭部は橙褐色。肛門鰓が長い。岩や藻類などの上に、体長と同じ位の長さの細粒状有機物の粗雑な巣をつくる。デトリタス食または藻食。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

河川の瀬や滑滝など流れが速い水域に幼虫が生息する。

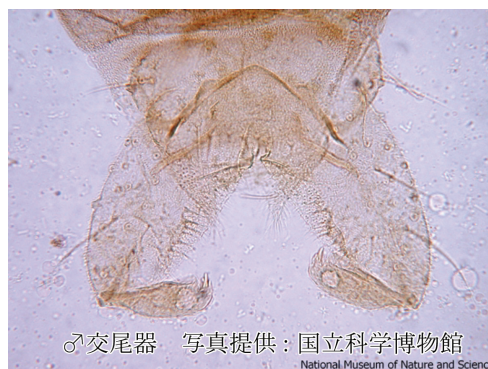
【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

河川の水質悪化および渇水による河川環境そのものの減少が脅威となる。

【関連文献】

Sasa, M. & H. Suzuki, 1997; 上野隆平・佐竹潔, 2009.

(執筆者: 上野隆平)



♂交尾器

写真提供: 国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

和名なし

Cricotopus ogasasextus

ハエ目(双翅目)
ユスリカ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長約 2.5mm。全身黒褐色で第 2 腹節基半がわずかに明るい。♂の交尾器の底節突起は単純で短く、把握器は内側に向いて曲がる。尾針はない。今までに採集されているのは 1 ♂のみであり、詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

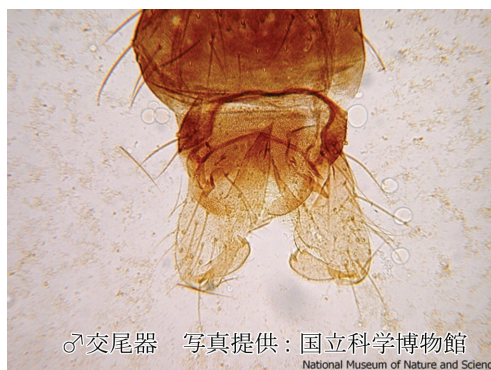
不明である。*Cricotopus* 属の幼虫は主に河川または湖沼沿岸部に生息し、ときに海岸の塩水域から汽水域に出現する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生息場所の選好性、島内での分布、営巣の形態など基本的な生態を明らかにする必要がある。

【関連文献】

Sasa, M. & H. Suzuki, 1997.



♂交尾器 写真提供：国立科学博物館

(執筆：上野隆平)

オガサワラツヤユスリカ

Cricotopus quadrizonatus

ハエ目(双翅目)
ユスリカ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長約 2.5mm。オガサワラフタオツヤユスリカに似るが、第 7 腹節および中脚、後脚の脛節は黄色く、第 9 腹節後端は円錐状にとがらず丸くなる。また、腹節に黄色の部分が出るため、全体により黄色味がかかる。幼虫もオガサワラフタオツヤユスリカとほぼ同じ形態。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

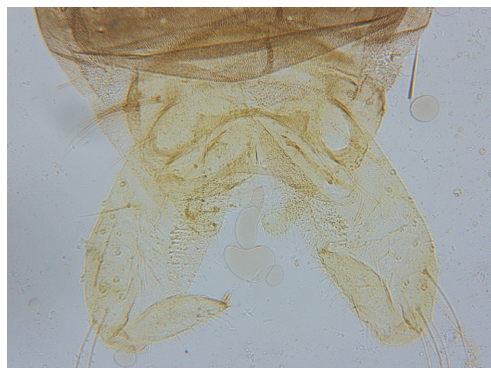
河川の瀬や滑滝など流れが速い水域に幼虫が生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

河川の水質悪化および渇水による河川環境そのものの減少が脅威となる。

【関連文献】

Tokunaga, M., 1964; Sasa, M. & H. Suzuki, 1997.



(執筆：上野隆平)

和名なし

Eukiefferiella ogasaoctava

ハエ目(双翅目)
ユスリカ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長約 1.5mm。全身暗褐色。♂の交尾器の底節突起は指状で短く、把握器は内側に向いて曲がる。尾針はない。詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。*Eukiefferiella* 属の幼虫は普通河川の上流から中流の礫上に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生息場所の選好性、島内での分布、営巣の形態など基本的な生態を明らかにする必要がある。

【関連文献】

Sasa, M. & H. Suzuki, 1997.



♂交尾器

写真提供：国立科学博物館

(執筆：上野隆平)

和名なし

Paraphaenocladus ogasadecimus

ハエ目(双翅目)
ユスリカ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長約 2.5mm。全身暗褐色。翅のほぼ全体に一樣に毛を密生する。♂の交尾器の底節突起は単純で短く、把握器は内側に向いて曲がる。尾針は円錐形で、先端近くに微毛を欠く。詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。*Paraphaenocladus* 属の幼虫には陸生のものもあり、生息場所は極めて多様である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生息場所の選好性、島内での分布、営巣の形態など基本的な生態を明らかにする必要がある。

【関連文献】

Sasa, M. & H. Suzuki, 1997.

(執筆: 上野隆平)



♂交尾器

写真提供: 国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

オガサワラヒゲユスリカ

Tanytarsus ogasaquartus

ハエ目(双翅目)
ユスリカ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長約 2.5mm。複眼が黒い以外、全身緑色。翅のほぼ全体に毛を密生するが、先端では特に密で基半ではややまばら。♂の交尾器の中底節突起は短い。把握器は後方を向く。尾針は長く幅広く、刺群がある。幼虫は灰黄白色で、頭部は褐色。触角が長い。堆積物中に微細な泥を固めた緻密で長い管状の巣をつくる。デトリタス食。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

河川の早瀬から淵で幼虫が採集される。湖沼沿岸部にも生息している可能性がある。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

河川の水質悪化および渇水による河川環境そのものの減少が脅威となる。

【関連文献】

Sasa, M. & H. Suzuki, 1997; 上野隆平・佐竹潔, 2009.

(執筆: 上野隆平)



♂交尾器

写真提供: 国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

和名なし

Tanytarsus ogasaterti

ハエ目(双翅目)
ユスリカ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長約 2.5mm。標本は複眼が黒い以外、全身黄色。おそらく生時は緑色。翅のほぼ全体に毛を密生するが、先端で特に密で基半ではややまばら。♂の交尾器の中底節突起は長い。把握器は後方を向く。尾針は長く幅広く、刺群がある。今までに採集されているのは1♂のみであり、詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。成虫は川岸で採集されている。*Tanytarsus* 属の幼虫は湖沼深部から河川の瀬まで幅広い陸水環境に出現。少数の種は海産。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生息場所の選好性、島内での分布、営巣の形態など基本的な生態を明らかにする必要がある。

【関連文献】

Sasa, M. & H. Suzuki, 1997.

(執筆: 上野隆平)



♂交尾器

写真提供: 国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

和名なし

Thienemanniella ogasaquardecima

ハエ目(双翅目)
ユスリカ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長約 1.5mm。全身褐色。翅脈の前縁脈と径脈が融合する。♂の交尾器の底節突起は幅広く低く、把握器は内側に向いて曲がる。尾針はない。幼虫は未確認だが、蛹が河川の早瀬で採集されている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

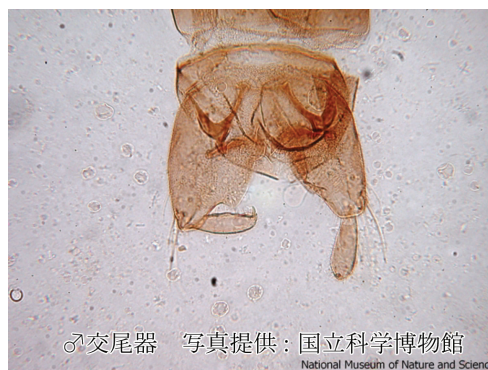
河川の早瀬に幼虫が生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生息場所の選好性、島内での分布、営巣の形態など基本的な生態を明らかにする必要がある。

【関連文献】

Sasa, M. & H. Suzuki, 1997; 上野隆平・佐竹潔, 2009.



♂交尾器 写真提供：国立科学博物館

(執筆：上野隆平)

和名なし

Thienemanniella ogasaquindecima

ハエ目(双翅目)
ユスリカ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長約 1.5mm。全身黄色の部分と褐色の部分の混在する。翅脈の前縁脈と径脈が融合する。♂の交尾器の底節突起は鋭角にとがり、把握器は内側に向いて曲がる。尾針はない。今までに採集されているのは1♂のみであり、詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

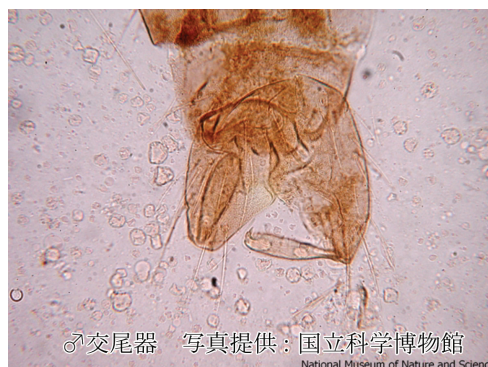
不明である。*Thienemanniella* 属の幼虫は河川の幅広い環境に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生息場所の選好性、島内での分布、営巣の形態など基本的な生態を明らかにする必要がある。

【関連文献】

Sasa, M. & H. Suzuki, 1997.



♂交尾器 写真提供：国立科学博物館

(執筆：上野隆平)

オガサワラホシツリアブ

Anthrax boninensis

ハエ目(双翅目)
ツリアブ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長 7.5mm、翅長 18mm。体は黒色。頭部は球形で、頭頂部に黒毛があり前頭部は白毛が混じる。胸背に黒毛と白毛が混じり、側面には白毛が多い。翅は透明で、やや灰色を帯び、基半から前縁部にかけて暗色。腹部は黒毛が多く、第1腹節の両側に白毛が密生する。詳しい生態は不明であるが、普通 *Anthrax* 属の種は、幼虫が各種のカリバチやハナバチに寄生するため、本種の寄主も同様と考えられる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島産の♀個体に基づいて 1916 年に記載されて以来、記録はない。寄主と推測されるカリバチやハナバチがグリーンアノールの捕食により減少していることが大きな脅威となっていると考えられる。

【関連文献】

松村松年, 1916; Evenhuis, N. L. & D. J. Greathead, 1999.



©SEHU,
Hokkaido Univ.

(執筆：伊東憲正)

コウシュンツリアブ

Anthrax koshunensis

ハエ目(双翅目)
ツリアブ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 9mm、翅長 22.5mm。体色は黒褐色。黒毛が多い。胸背には短灰白毛と黒毛が混生し、両側の毛は長い。翅は透明で、基部から中ほどまでは黒色。腹部は両側に長黒毛が多く、白毛も少し混じる。第1腹節の両側に白毛が叢生する。詳しい生態は不明であるが、普通 *Anthrax* 属の種は、幼虫が各種のカリバチやハナバチに寄生するため、本種の寄主も同様と考えられる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

台湾恒春産の♀の個体に基づいて 1916 年に記載された種である。

1906 年に小笠原から記録された *Spogostigma distigma* (現在の *A. distigma*) が本種の誤同定であることが分かり、それが唯一の小笠原の記録となっている。寄主と推測されるカリバチやハナバチがグリーンアノールの捕食により減少していることが大きな脅威となっていると考えられる。

【関連文献】

松村松年, 1916; Evenhuis, N. L. & D. J. Greathead, 1999.

(執筆: 伊東憲正)



©SEHU,
Hokkaido Univ.

チチジマツリアブ

Brachyanax chichijimensis

ハエ目(双翅目)
ツリアブ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 3.5mm、翅長 10.0mm。頭部は黒毛で覆われる。胸背前面には白毛があり、まばらに黒毛が混じる。翅は透明で、基部から中ほどまでは黒味がかかる。第1腹節に白毛があり、第2～7腹節には黒毛で覆われる。詳しい生態は不明であるが、普通近縁の *Anthrax* 属の種は、幼虫が各種のカリバチやハナバチに寄生するため、本種の寄主も同様と考えられる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

おそらく海浜草地に生息すると考えられる。

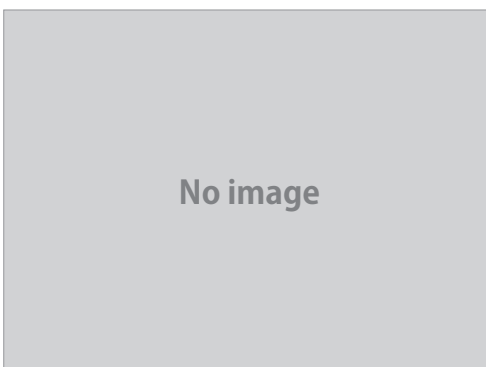
【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島で 1958 年に採集された♀の個体に基づいて記載されて以来、記録はない。寄主と推測されるカリバチやハナバチがグリーンアノールの捕食により減少していることが大きな脅威となっていると考えられる。

【関連文献】

Evenhuis, N. L., 1981; Evenhuis, N. L. & D. J. Greathead, 1999.

(執筆: 伊東憲正)



オガサワラツリアブ

Exhyalanthrax ogasawarensis

ハエ目(双翅目)
ツリアブ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 9mm、翅長 19.5mm。体色は黒色。金色の短毛が多い。胸背には短黒毛が疎生し、両側に金色毛が叢生する。翅は透明で、基部から前縁部にかけて黒色。腹部は金色の鱗毛が多く、黒毛も少し混じる。腹面の基部に黄色の長毛が疎生する。詳しい生態は不明である。*Exhyalanthrax* 属の寄主はハエ目有弁翅類が多く、その他ゴキブリ目、ハチ目、チョウ目知られるが、本種の寄主は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

おそらく海浜草地に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島産の♀の個体に基づいて 1916 年に記載されたが、最近の調査では父島からは記録されておらず、智島、向島、姪島からは記録されている。寄主と推測されるカリバチやハナバチがグリーンアノールの捕食により減少していることが大きな脅威となっていると考えられる。

【関連文献】

松村松年, 1916; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 伊東憲正)



所蔵: 神奈川県立生命の星
・地球博物館

オガサワライシアブ

Laphria ogasawaraensis

ハエ目(双翅目)
ムシヒキアブ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 13.5mm、翅長 21mm。体色は黒色。顔には金色の長毛が叢生し、頬の毛は白い。肩部と横じわに灰黄色の粉を装い、胸背の中央に 2 本の不明瞭な灰色条がある。翅は暗色で半透明であるが、基部はやや黄白色となる。腹部は弓状に湾曲し、絹光沢のある黄褐色毛を密生する。詳しい生態は不明であるが、普通 *Laphria* 属の幼虫は、コウチュウ目などの幼虫に寄生することから、本種の寄主も同様と考えられる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

おそらく樹林環境に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島産の個体に基づいて 1916 年に記載された種で、最近の調査では母島、弟島、妹島、向島、北硫黄島からも記録がある。小笠原諸島の樹林環境に広く生息している可能性があるため、樹林環境の保全が望ましい。

【関連文献】

松村松年, 1916; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆: 伊東憲正)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

オガサワラモモブトチビハナアブ

Syrirta snyderi

ハエ目(双翅目)
ハナアブ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 9 ~ 11mm、翅長 6 ~ 7mm。小型で体は細い。胸背は光沢のある黒色で、肩部と側面は淡黄色。第 1 腹節は橙黄色で、第 2 腹節には 1 対の橙黄色の大きな紋がある。第 3 腹節以降には橙黄色の小さな斑紋がある。♂の後腿節先端には棒状の突起がある。詳しい生態は不明であるが、おそらく幼虫は湿った腐植(堆肥や枯草など)を食べると考えられる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

おそらく海岸沿いの草地や林縁に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島産の標本に基づいて 1958 年に記載された種で、最近の調査では賀島、兄島、西島、姉島、妹島からも記録がある。小笠原諸島の海岸沿いの草地や林縁に広く生息している可能性があるため、海岸沿いの草地環境や樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Shiraki, T., 1963; 市毛勝義, 2006.

(執筆: 伊東憲正)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

オガサワラハラナガハナアブ

Xylota boninensis

ハエ目(双翅目)
ハナアブ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 10 ~ 11mm、翅長 7.5 ~ 8.0mm。細長い体型で胸背は光沢のある黒銅色。額の突出は弱い。顔面は鈍い黒色で微粉を装う。第 1 腹節は光沢のある緑がかった黒色で黄色の微毛がある。第 2 ~ 3 腹節には 1 対の大きな赤味がかった黄色の紋がある。脚は基節と転節、腿節は黒色。詳しい生態は不明であるが、おそらく幼虫は樹皮下に生息し、樹液などを餌にすると考えられる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

おそらく樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島産の標本に基づいて 1958 年に記載された種で、記載以降記録がなかったが、2007 年に南硫黄島で誘引衝突式トラップにより 1 個体が確認された。生息環境と考えられる樹林環境を保全することが望ましい。

【関連文献】

Shiraki, T., 1963; 苅部治紀・松本浩一, 2008.

(執筆: 伊東憲正)



提供: 農業環境技術研究所

シマモクセイミバエ

Parazeugodacus matsumurai

ハエ目(双翅目)
ミバエ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 6～7mm、翅長 6.0～6.6mm。顔面は光沢のある青白い黄色で、1 対の黒い卵形の紋がある。胸背の大部分は黒色で、灰色の微毛と黄白色の軟毛に覆われる。腹部は橙黄色から赤黄色で、第 1 腹節は黒味がかかり、第 2～4 腹節の基部に沿って黒色の横帯がある。脚は黄色。翅は透明でわずかに褐色がかかり、縁紋と末端は暗褐色。幼虫の寄主植物はシマモクセイが記録されている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

おそらく樹林に生息すると考えられる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

小笠原産の標本に基づいて 1933 年に記載された種で、その後 1949 年と 1951 年に父島と母島から少数記録されたが、それ以降の調査が少なく、生息状況は不明である。既知の寄主であるシマモクセイが生育する樹林環境の保全が望ましい。

【関連文献】

Shiraki, T., 1933; Ito, S., 1983.

(執筆: 伊東憲正)



所蔵: 大阪府立大学

ボニンフサショウジョウバエ

Hirtodrosophila apicohispida

ハエ目(双翅目)
ショウジョウバエ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長約 2.5mm。触角端刺は、末端叉状分枝を除いて、6～7 の上向分枝と 1～2 の下向分枝を有する。基部数本の分枝は第 3 眼縁剛毛とほぼ同長。中胸背面に 3 対のやや不鮮明な暗色縦条がある。中胸背毛は、前背中剛毛の内側前方で、不規則な 8 列。中胸側板中央部(中胸上側板の下半分)に淡色縦条がある。脚は淡灰黄色だが、基節と腿節中央部に暗色斑がある。詳しい生態は不明だが、キクラゲ類の子実体で摂食、繁殖を行っている可能性がある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

朽ち木の豊富な、湿った樹林の林床に生息している可能性が高い。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1970 年に父島と母島から採集された 1 ♂ 1 ♀ に基づいて記載されて以来、長い間採集されることがなかったが、2009 年に母島から 1 ♀ が 39 年ぶりに採集された。父島では絶滅した可能性もある。

【関連文献】

Okada, T., 1973.

(執筆: 戸田正憲)



© 和多田正義 (愛媛大学)

ヒラタケフサショウジョウバエ

Hirtodrosophila paiviae

ハエ目(双翅目)
ショウジョウバエ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 ♂ 1.7～2.1mm、♀ 2.0～2.5mm。触角端刺は、末端叉状分枝を除いて、5～7 の上向分枝と 1～2 の下向分枝を有し、分枝は第 3 眼縁剛毛よりも短い。中胸背面は全体灰褐色だが、2 対のやや不鮮明な暗色縦条がある。中胸背毛は、前背中剛毛の内側前方で、規則的に 6 列に並ぶ。中胸側板は全体淡黄色縦条がある。脚は淡灰黄色だが、跗節第 5 節は暗色。腹部第 3～5 背板には、中央部に後方に向かって広がる大きな黒斑がある。主にヒラタケ属のキノコで繁殖する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

朽ち木の豊富な、湿った樹林の林床に生息している。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島で、1998 年頃まではかなりの個体数が採集されていたが、2009～2010 年の調査では個体数が激減した。湿性原生林の自然状態を極力保全することが望ましい。

【関連文献】

Toda, M. J. et al., 1987; 和多田正義ら, 2011.

(執筆: 戸田正憲)



© 和多田正義 (愛媛大学)

フサクシショウジョウバエ

Drosophila pectinifera

ハエ目（双翅目）
ショウジョウバエ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長約 2.2mm。♀で最大約 3.0mm。小顎鬚は暗灰褐色。翅の前縁剛毛比は 0.60 ~ 0.75。♂の前脚跗節第 1 および第 2 節に、それぞれほぼ全長にわたる長い性櫛がある。腹部第 2 ~ 5 背板後端に、中央で切れない黒横帯があり、第 3 ~ 5 背板のものは、中央部で前方に伸びる。♂の腹部第 6 背板は、側端部を除いて全体黒色。成虫は、いろいろな落下果実で摂食し、ガジュマル、シマホルトノキなどの果実で繁殖する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林環境を中心に生息するが、部分的に人家周辺を含めて幅広い環境にも進出している。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

小笠原固有のショウジョウバエ種の中で、今日まで最も安定的に個体群が存続しているが、部分的には、外来種との競合も起きている可能性がある。

【関連文献】

Wheeler, M. R. & H. Takada, 1964; 和多田正義ら, 2011.

(執筆: 戸田正憲)



© 和多田正義 (愛媛大学)

オガサワラトゲオショウジョウバエ

Dichaetophora ogasawarensis

ハエ目（双翅目）
ショウジョウバエ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長♂ 1.6 ~ 1.9mm、♀ 1.9 ~ 2.2mm。側面から見た複眼の長軸は、体軸に対して傾いている（直角ではない）。額は扁平。胸部側面には、前胸側板から平均棍の付け根まで走る、幅広い暗褐色の縦条がある。♀の導卵突起の先端部には、数本のがっしりしたとげがある。成虫は、林床、倒木などの樹幹、シマホルトノキの落下果実、ハラタケ目のキノコなどのあるところを捕虫網でスウィーピングするとよく採集されるが、繁殖場所は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島；中国

【小笠原諸島における生息環境】

倒朽木の豊富な、湿った樹林の林床に生息している。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島および母島で、今日まで継続して採集されているが、長期間の増減に特定の傾向はない。湿った樹林環境を極力保全することが望ましい。

【関連文献】

Toda, M. J. et al., 1987; 和多田正義ら, 2011.

(執筆: 戸田正憲)



© 和多田正義 (愛媛大学)

チャイロヒメショウジョウバエ

Scaptomyza hexasticha

ハエ目（双翅目）
ショウジョウバエ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長約 1.5mm。触角端刺は、末端叉状分枝を除いて、3 本の上向分枝と 1 本の下向分枝を有する肩部には 2 本の長い肩剛毛がある。中胸背毛は、前背中剛毛の内側前方で、不規則な 6 列。成虫は、樹林および林縁環境の林床を捕虫網でスウィーピングするとよく採集される。繁殖生態は不明だが、草本類の葉および茎から発生している可能性がある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林および林縁環境の林床に生息している。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1971、1972 年に母島から採集された 2 ♂ 1 ♀に基づいて記載された後、1979 年には父島からも記録され、その後今日まで両島で個体群が存続しているが、個体数は多くない。母島の個体群の方が大きい。

【関連文献】

Okada, T., 1973; 和多田正義ら, 2011.

(執筆: 戸田正憲)



© 和多田正義 (愛媛大学)

ボニンフトヒメショウジョウバエ ハエ目 (双翅目) *Scaptomyza boninensis* ショウジョウバエ科

小笠原諸島 

環境省

【形態・生態】

体長約 2.5mm。触角端刺は、末端叉状分枝を除いて、3～4本の上向分枝と2本の下向分枝を有す。肩部には1本の長い肩剛毛がある。中胸背毛は、前背中剛毛の内側前方で、2列。♀の左右の導卵突起板は癒合して1枚の板になっている。成虫は、比較的開けた草地環境などにおいて捕虫網でスウィーピングすると採集されることが多いが、繁殖生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

比較的開けた草地環境などに生息している。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島および母島で存続しているが、両島とも個体群密度は低い。同じように開けた環境に生息する同属の外来種（コフキヒメショウジョウバエ *S. pallida*、ミナミコフキヒメショウジョウバエ *S. elmoi*、タデヒメショウジョウバエ *S. polygonia*）と競合関係にある可能性もある。

【関連文献】

Okada, T., 1973; 和多田正義ら, 2011.

(執筆者: 戸田正憲)



© 和多田正義 (愛媛大学)

ボニンミズギワイエバエ ハエ目 (双翅目) *Limnophora boninensis* イエバエ科

小笠原諸島 

環境省

【形態・生態】

体長 3.5～5.0mm。♂♀ともに額が広く、前方に突出する。額帯は黒色で、灰白色粉を装う。触角、触鬚ともに黒色。胸部、腹部、脚は全て黒色。翅は透明。成虫、幼虫ともに水際に生息するユスリカなどの微小水生昆虫類を捕食する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

小規模な溪流の湿った岩の上で成虫が見られる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

溪流沿いの自然環境の変化や水質の悪化によって、絶滅のおそれがある。

【関連文献】

Snyder, F. M., 1965; Shinonaga, S., 2003.

(執筆者: 倉橋弘)



所蔵: 国立科学博物館

キンクロミズギワイエバエ ハエ目 (双翅目) *Limnophora bracteola* イエバエ科

小笠原諸島 

環境省

【形態・生態】

体長 4.6～6.5 mm。♂♀ともに額が広く、額帯は黒色で、灰白色粉を装う。体は黒色光沢を帯びる。前脚跗節の第3～4節が黄色である。触角、触鬚ともに黒色。脚は前脚の跗節を除き黒色。翅は透明。成虫、幼虫とも捕食性。水際の微小な水生昆虫類を捕食する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

小規模な溪流の湿った岩の上で成虫が見られる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

周囲の自然環境が良く保全された小規模な溪流にのみ生息しているので、水質の悪化や、植生の変化によって、絶滅のおそれがある。

【関連文献】

Snyder, F. M., 1965; Shinonaga, S., 2003.

(執筆者: 倉橋弘)



所蔵: 国立科学博物館

ハハジマミズギワイエバエ

Limnophora haha

ハエ目(双翅目)
イエバエ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 4.3 ~ 6.0 mm。♂の額は狭く♀では広い。額帯は黒色で、灰白色粉を装う。触角、触鬚ともに黒色。脚は全て黒色。翅は透明。成虫、幼虫ともに捕食性。水際の微小な水生昆虫類を捕食する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

小規模な溪流の湿った岩の上で成虫が見られる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

周囲の自然環境が良く保全された小規模な溪流にしか見られないので、植生の変化や水質の悪化によって、絶滅のおそれがある。

【関連文献】

Snyder, F. M., 1965; Shinonaga, S., 2003.



© 国際双翅類研究所

(執筆: 倉橋弘)

オガサワラミズギワイエバエ

Limnophora setibunda

ハエ目(双翅目)
イエバエ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 4.1 ~ 5.5 mm。♂♀ともに額が広い。額帯は黒色で、灰白色粉を帯びる。触角と触鬚ともに黒色。胸部と腹部は黒色、灰白色粉を装う。第1腹板は有毛。第3~5背板には台形の斑紋を持つ。翅は透明。脚は黒色。ユスリカなどの微小水生昆虫類の幼虫や成虫を捕食していると思われる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

人手があまり入っていない小規模な溪流で生息が確認されている。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

環境や水質の悪化などで微小水生昆虫類が減少すると絶滅が危惧される。

【関連文献】

Snyder, F. M., 1965; Shinonaga, S., 2003.



所蔵: 国立科学博物館

(執筆: 倉橋弘)

マイマイミズギワイエバエ

Limnophora umbra

ハエ目(双翅目)
イエバエ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 3.8 ~ 6.0 mm。♂♀ともに額が広い。額帯は帯状をしており黒色で、灰白色粉を装う。触角は黒色。触鬚は黒褐色。胸部は黒色、横溝と小楯板の直前に白色粉の横帯を持つ。翅は透明。脚は黒色。腹部は黒色から黒褐色、第3~4背板は黒褐色で、側面に銀白色粉を装う。第1腹板は裸出。成虫は樹林内の湿った地表に生息し、カタツムリなどの死体に好んで集まる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

人手があまり入っていない樹林内で生息が確認されている。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

気候の変動や開発などにより樹林内の湿度が低下すると絶滅する可能性がある。

【関連文献】

Snyder, F. M., 1965; Shinonaga, S., 2003.



© 国際双翅類研究所

(執筆: 倉橋弘)

オガサワラカトリバエ

Lispe boninensis

ハエ目(双翅目)
イエバエ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 6.5 ～ 7.0 mm。♂♀ともに額が広い。額帯は黒色。黄金色を帯びる単眼三角区は額帯の前方先端までのびる。側縁部と顔側部は黄金色。触角は黒褐色。触鬚は褐色。胸背には3本の黒色縦条をもつ。翅は透明。脚は腿節が黒色、脛節と跗節は黒褐色。前脚脛節に後側剛毛を欠く。詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

人手があまり入っていない水辺に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

個体数が少ないので水辺の生息環境を特定して生息環境を保全する必要がある。

【関連文献】

Snyder, F. M., 1965; Shinonaga, S., 2003.



© 国際双翅類研究所

(執筆: 倉橋弘)

チチジマハナレメイエバエ

Pygophora boninensis

ハエ目(双翅目)
イエバエ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 5.7 ～ 6.2 mm。♂♀ともに額は広い。額帯は帯状で、前方で幅広くなり、橙黄色。単眼三角区は小さく額帯の長さの半分。触角は橙色。触鬚は黄色。胸背は黒色、全体に背白色粉を装う。翅は透明、翅端に暗褐色紋をもつ。脚は橙色。腹部の尾端は両側から押しつぶされたように細くなっている。第2～3背板は橙黄色で、斑紋を持たない。詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

草地が生息環境と思われるが確認されていない。開けたところに生育するハイビスカスやバンヤンの葉上でカイガラムシやアブラムシの分泌物を舐めているのが観察される。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

個体数が少ないので、生息環境を特定し、保護する必要がある。

【関連文献】

Snyder, F. M., 1965; Shinonaga, S., 2003.



所蔵: 国立科学博物館

(執筆: 倉橋弘)

オガサワラキンバエ

Lucilia snyderi

ハエ目(双翅目)
クロバエ科

小笠原諸島



環境省

【形態・生態】

体長 5.5 ～ 9.0 mm。♂の額は狭く、♀では広い。触角は黒色。触鬚は黄色から黄褐色。胸部と腹部は黒色で、紫色の光沢を帯び、薄く灰白色粉を装う。翅は透明、基部はやや褐色を帯びる。脚は黒色。動物の死体に発生、ときに生きた動物の傷口にも発生する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

母島では個体数が少ないが、南硫黄島ではおびただしい数の生息が確認されている。病気や傷ついた海鳥やその死体、メジロなどの陸鳥のヒナへの産卵が確認されている。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

海鳥や陸鳥の生息環境が保全されていれば、絶滅する可能性は低い。

【関連文献】

Kurahashi, H., 1966; 倉橋弘, 1982.



© 国際双翅類研究所

(執筆: 倉橋弘)

オガサワラホソニクバエ

Goniophyto boninensis

ハエ目(双翅目)

ニクバエ科

小笠原諸島

DD

環境省

【形態・生態】

体長 6.0 ~ 8.0 mm。♂♀とも額が広い。体は細長い。剛毛が発達したニクバエ。額帯は黒色。触角は黒色。触角端刺はベルベット状に微毛を生ず。顔側部は裸出。胸背には不明瞭な縦条を持つ。腹部は黒色、灰白色粉を装う。第3~4背板には山型の黒色紋を持つ。翅は透明、全体に薄く褐色を帯びる。脚は黒色。詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

近縁種は海岸に生息するが、母島では海から切り立った山頂近くで確認されている。詳細は不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島の限られた場所で確認されている。その場所全体の環境保全が本種の生存には不可欠と思われる。

【関連文献】

Lopes, H. S., 1958 ; Kurahashi, H., 1975.

(執筆: 倉橋弘)



所蔵：
国立科学博物館

【種名・学名などの準拠文献】

ユスリカ科の和名、学名、配列は日本ユスリカ研究会 (2010) に、それ以外の科については、学名は大林ら (2002) に、配列は石井ら (1997) に準拠した。ただし、ツリアブ科の学名は、Evenhuis (2007) に準拠した。

日本ユスリカ研究会 (編), 2010. 図説日本のユスリカ. 文一総合出版. 408 pp.

大林隆司・稲葉慎・鈴木創・加藤真, 2002. 小笠原諸島産昆虫目録 (2002 年版). 小笠原研究, (29): 18-74.

石井実・大谷剛・常喜豊 (編), 1997. 日本動物大百科第9巻 昆虫II. 平凡社. 181 pp.

Evenhuis, N. L., 2007. Catalog of the Diptera of the Australasian and Oceanian Regions (online version).

【関連文献】

Evenhuis, N. L., 1981. Studies in Pacific Bombyliidae (Diptera) VI Description of a new anthracine genus from the western Pacific, with notes on some of Matsumura's Anthracine types. *Pacific Insects*, 23(1-2): 189-200.

Evenhuis, N. L. & D. J. Greathead, 1999. World catalog of bee flies (Diptera: Bombyliidae). Backhuys Publishers. xlviii + 756 pp.

市毛勝義, 2006. ミナミモモトチビハナアブの学名について. はなあぶ, 21: 22-23.

Ito, S., 1983. Die japanischen Bohrfliegen 1. 48 pp.

荻部治紀・松本浩一, 2008. 南硫黄島の昆虫類. *Ogasawara Research*, 33: 135-143.

荻部治紀・高桑正敏・須田真一・松本浩一・岸本孝郎・中原直子・長瀬博彦・鈴木互, 2004. 神奈川県立生命の星・地球博物館が行った 1997-2003 年の調査で得られた小笠原の昆虫目. 神奈川博調査研報 (自然科学), (12): 65-86.

Kurahashi, H., 1966. Studies on the Calypterate Muscoid Flies from Japan V. Revision of the tribe Luciliini (Diptera, Calliphoridae). *The Science Reports of the Kanazawa University*, 11: 105-124.

Kurahashi, H., 1975. Studies on the Calypterate Muscoid Flies from Japan XI. Subfamily Agriinae (Diptera, Sarcophagidae). *Kontyû*, 43: 202-213.

倉橋弘, 1982. 南硫黄島産有弁翅蠅類. 南硫黄島原生自然環境保全地域調査報告書. 環境庁自然保護局, 349-351.

Lopes, H. S., 1958. Diptera: Sarcophagidae. *Insects of Micronesia*, 13: 15-49.

松村松年, 1916. 新日本千蟲圖解 卷之二. 警醒社書店. 474 pp. + 10 pls.

Okada, T., 1973. Description of four new species of Drosophilidae of the Bonins, with taxometrical analyses of the *Scaptomyza* species (Diptera). *Kontyû*, 41: 83-90.

Sasa, M. & H., Suzuki, 1997. Studies on the Chironomidae (Diptera) collected from the Ogasawara Islands, southern Japan. *Medical Entomology and Zoology*, 48(4): 315-343.

Shinonaga, S., 2003. A monograph of the Muscidae of Japan. Tokai University Press. 347 pp.

Shiraki T., 1933. A systematic study of Trypetidae in the Japanese Empire. *Memoirs of the Faculty of Science and Agriculture, Taihoku Imperial University*, 8(2): 1-509.

Shiraki, T., 1963. Diptera: Syrphidae. *Insect of Micronesia*, 13: 129-187.

Snyder, F. M., 1965. Diptera: Muscidae. *Insects of Micronesia*, 13: 191-327.

Toda, M. J., Riihimaa, A. & Y. Fuyama, 1987. Additional notes on drosophilid flies (Diptera, Drosophilidae) in the Bonin Islands, with descriptions of two new species. *Kontyû*, 55: 240-258.

Tokunaga, M., 1964. Diptera: Chironomidae. *Insects of Micronesia*, 12(5): 485-628.

上野隆平・佐竹潔, 2009. 小笠原諸島父島・母島のユスリカ相. 陸水学雑誌, 70(1): 21-29.

和多田正義・布山喜章・田辺慎一・渡部英昭・吉岡伸也・戸田正憲, 2011. 小笠原諸島におけるショウジョウバエ相の変遷と新たな侵入種. 低温科学, 69: 113-119.

Wheeler, M. R. & H. Takada, 1964. Diptera: Drosophilidae. *Insect of Micronesia*, 14: 163-242.